

第5学年 体 育（保健領域）

第5学年の学習到達目標

- (1) けがの防止や心の健康について理解し，健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。
 (2) 心の健康について理解できるようにし，健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

第5学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	事故の発生	学校や身のまわりの地域での危険な行動や場所に気づくことができる。 事故は，人の行動と環境が原因で起こることがわかる。 けがを防止するための方法を調べようとしている。	学校や身のまわりの地域で，危険だと思う場面を探す。 危険だと感じた場面は，どのような原因で事故が起こるのか，話し合う。 事故の原因を「人の行動」と「環境」という観点でまとめる。
	学校や身のまわりの地いきでのけが	学校や身のまわりの地域で起こるけがを防止するために，ふだんの生活で注意していることを発表しようとしている。 学校や身のまわりの地域で行なわれている安全な環境づくりに気づくことができる。 どのようにすれば，学校や身のまわりの地域で起こるけがを防止できるかわかる。	学校や身のまわりの地域で起こるけがを防止するために，ふだん注意していることについて考え，話し合う。 教科書の絵を見て，これから起こりそうなことを予測し，どのようにすればそれを防止できるか考え，発表する。 教科書をもとにしながら，どのような環境づくりがなされているか話し合う。 学校や身のまわりの地域でのけがについて学習して，今後の生活に役立てたいこと，もっとも重要に感じたことなどを，一言感想でまとめたり，発表したりする。
	交通事故の原因と防止	交通事故の原因がわかる。 交通事故を防止する方法について，進んで考えようとしている。 安全施設・設備の役割を理解し，交通事故の防止に役立てることができる。	「小学生の交通事故の原因」のグラフを見て，歩いているときや自転車に乗っているときに起こる事故の原因で，最も多いことは何か読み取る。 教科書の絵を見て，これから起こりそうな交通事故を予測し，どのようにすれば交通事故を防止できるか考える。 安全施設・設備，道路標識・道路標示の写真を見て，どのような役割があるか調べる。
	けがの手当て	けがをしたときの手当てのしかたがわかる。 けがをしたときの簡単な手当てが正しくできる。 手当てのポイントをまとめ，万一の場合に生かそうとしている。	けがをしたときの手当てのしかたを調べる。 調べた手当てのしかたを，けがをしたと仮定して実際にやってみる。 手当てのしかたのポイントをまとめる。
後期	心の発達	心が発達することとは，感情，社会性，思考力などのはたらきが発達することであることがわかる。 いろいろな経験や人のかかわりを通して，心が発達していくことに気づくことができる。 よりよく自分の心が発達していくためにはどのようにしていったらよいか，目標をもとうとしている。	心が発達するということがどういうことか，自分の経験も考えながら話し合う。 いろいろな経験と心の発達について話し合う。 心が発達するということはどのようなことなのかをまとめ，これからどのようにしていったらよいか，自分なりの目標をもつ。
	心とからだのつながり	心の動きとからだに起こる変化が関係していることがわかる。 「心のいらいらとからだの調子やぐあい」のグラフと自分の経験を照らし合わせて，心とからだのつながりを考えることができる。 心とからだのつながりについて，自分の経験をもとに考えようとしている。	心の動きといっしょにからだにどのような変化が起こるか考える。 「心のいらいらとからだの調子やぐあい」のグラフを見ながら，心とからだのつながりについて考える。 からだの調子や具合が悪くなったときの心の動きを思い出し，記入欄に記入しながら，心とからだのつながりについてまとめる。

	不安なとき・なやみがあるとき	不安やなやみは誰にでもあることがわかる。不安やなやみで困ったら、自分ならどのように対処するか考え、話し合うことができる。不安やなやみで困ったら、自分に適した方法で対処しようとしている。	「小学生の日常生活でのなやみ」のグラフを見ながら、日頃から不安を感じていることやなやんでいることを話し合う。不安やなやみで困ったときに、自分ならどのようにするか考える。それぞれの考えを出し合い、不安やなやみで困ったときにはどのようにしたらよいかまとめる。
	みんなで生きる	例で示された場面について、自分の考えをもち、人とのかかわり方を話し合うことができる。自分の不安やなやみが、ほかの人とのかかわりによって、やわらぐことがあることがわかる。今後、ほかの人とどのようにかかわっていきたいか、考えようとしている。	教科書の絵のような場面で、自分ならどのようにするか考え、それをもとに話し合う。教科書の例以外の場面における他の人とのかかわりで、自分が困った経験とそのときの行動を書き出し、かかわり方を考える。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うため、健康の大切さを認識し、自己の健康を管理し改善するなど子どもが自ら健康的な生活を実践できる資質や能力の基礎を身に付けている、あるいは身に付けようとしているかどうかということが評価の観点となります。</p> <p>【健康・安全への関心・意欲・態度】</p> <p>心の健康やけがの防止について関心をもち、自ら健康的な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。</p> <p>【健康・安全についての思考・判断】</p> <p>心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して考え、判断している。</p> <p>【健康・安全についての知識・理解】</p> <p>心の健康およびけがの原因とその防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>グループや学級全体での話し合いや意見交換などの発言の様子、自己評価、学習態度、ワークシート、ペーパーテストなど様々な面から評価します。</p> <p>学習の進行中における評価を重視し、課題を解決していく過程での子どもの思いなども大切にします。</p>
--	---

特色ある学習方法

<p>(1) 子どもの学習状況に応じて情報を提供したり、興味・関心を高めるための視聴覚教材や資料などを活用したりして、子どもの学習意欲を引き出します。学習の中で取り上げる病気の中には、実際にかかった経験のあるものも多く含まれています。子どものそういう経験を掘り起こし、それらを授業の中で適切に取り上げることにより、主体的な学習を目指します。</p> <p>(2) より深く理解していくために、必要に応じて簡単な実習（ロールプレイング）や実験などを取り入れ、学習の形態の工夫をします。</p> <p>(3) 日常生活の体験や事例などをもとに、具体的に考えたり話し合ったりするグループ活動などを取り入れ実践的な理解を図ります。</p> <p>(4) 食生活をはじめとする望ましい生活習慣、運動、休養及び睡眠など習慣形成に関する学習の効果を高めるために学校給食、特別活動、道徳、保健室などとの関連を図りながら学習を進めます。</p>

使用材教等

<p>教科書 「新しい保健 5・6年」 東京書籍</p> <p>学習の興味を高め、理解を深めるため、ワークシートや掲示資料などを活用します。</p>
--

留意事項

<p>保健の学習では、学習したことと日常生活の経験とが関連付けられたものになることが大切です。けがの防止や心の健康についてより深く理解し、生活習慣、健康、安全などについて「ああ、なるほど」というような実感と納得を伴ったものにするため、学習したことが実践できるように、ご家庭でもご協力をお願いします。</p>
